

インフルエンザ予防接種について

◆効果と副反応

予防接種の効果によりインフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くしたりすることができます。インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。

副反応は一般的に軽微です。注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。通常は2〜3日で消失します。

発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛などもまれに起こります。

強い卵アレルギーのある方は強い副反応を生じる可能性があるため必ず医師に申し出て下さい。

非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。

- 1) ショック、アナフィラキシー(蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等)
- 2) 急性散在性脳脊髄炎(ADEM)(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害等)
- 3) 脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎
- 4) ギラン・バレー症候群
- 5) けいれん(熱性けいれんを含む)
- 6) 肝機能障害、黄疸
- 7) 喘息発作
- 8) 血小板減少性紫斑病、血小板減少
- 9) 血管炎(IgA 血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球性破砕性血管炎等)
- 10) 間質性肺炎
- 11) 皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、急性汎発性発疹性膿疱症
- 12) ネフローゼ症候群

このような症状が認められたり、疑われたりする場合は、すぐに医師に申し出てください。

なお、健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人又は近親者が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

◆接種後の注意

1. インフルエンザワクチン接種後30分間は、急な副反応が起きることがあります。

院内に留まるなど様子を観察し、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。

2. インフルエンザワクチン接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう
3. 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないでください。
4. 接種当日は、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
5. 高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けて下さい。